

科目No.	357		科目名	社会技術革新学特論12		サブネーム	現代企業経営論 2		
共催機関/連携機関	新エネルギー・産業技術総合開発機構・東京工業大学大学院化学工学専攻 / 社会技術革新学会・ディレクトフォース			レベル	中級	講義日時	月曜日 18:30~20:00	講義場所	キャンパス・イノベーションセンター東京
科目概要	社会(ニーズ)の変化を把握し(マーケティング)、自社の技術(シーズ)開発へ如何に結びつけるかを具体的なケースで学習する。前期にひきつづいて後期では、そのターゲットを経営活動(モノづくり)のステップ毎にどうやって実現してゆくかを各企業の具体的なケースを検証する。								
サブタイトル	No.	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属		
企業成長の鍵である研究開発	1	化学産業における研究開発	日本の自動車産業、IT産業等の発展を脇役として支えているのが化学産業である。新規材料の開発(例として炭素繊維の開発・市場化)及び既存材料の改善・原価低減(例としてポリエステル原料テレフタル酸の生産技術革新)という二大課題への取組みを紹介する。	8月11日	キャンパス・イノベーションセンター東京 (JR田町駅前)	浅野応孝	三菱化学		
	2			8月18日					
	3	自動車産業における研究開発	自動車そのものには、当然ながら危険が一杯である。快適性と安全性、安全性と経済性等矛盾する課題を解決しながら、新車を開発する難しさと喜びを具体例で説明する。	8月25日		三宅健作	三菱自動車		
	4			9月1日					
知的財産戦略	5	技術経営と特許戦略	新規の事業化には、「研究→開発→事業化→産業化」という4つのステージがある。それぞれのステージにおける戦略思考の重要性、特許戦略を並行して機能させるための仕組み等を具体例を交えながら説明する。	9月8日	キャンパス・イノベーションセンター東京 (JR田町駅前)	延末憲三	山形大学 JSR		
	6			9月22日					
	7	技術移転	日本の企業からは数多くの技術移転がなされているが、その交渉から実施、フォローの各段階では極めて大きいリスクが潜在している。中国宝山製鉄所への技術移転の経緯を紹介しつつ、これを通じて学んだものを説明する。	9月29日		梅津善徳	新日鉄 元中国協力本部		
	8			10月6日					
海外進出と設備建設のリスク	9	海外進出	コスト削減、事業拡大などの目的で海外進出は不可避であるが、様々の予期しなかったトラブルが発生する。対応策を実際のケースで学習する。	10月20日	合田隆年	宇部興産			
	10	設備建設	買収したスペイン企業(現法)において、彼らにとっては初めての化学品の設備を建設したが、種々のトラブルが発生しスタートが大幅遅延した。その原因分析から今後のリスクマネジメントのあり方について論じる。	10月27日					
競争力の基盤強化	11	原価低減	グローバル化する事業展開の中では、現有中核製品の基盤強化のためにあらゆる努力がなされている。生産管理、品質管理、原価低減等をIE、VAを切り口として具体的に説明する。	11月10日	高瀬親史	日立化成			
	12			11月17日					
ベンチャービジネス	13	ベンチャーの起業と成否をわけもの	かつてアメリカ経済を再活性化させたものの一つとして、ベンチャービジネスがある。日本においても、その育成強化が不可欠とされているが、その現状はどうであろうか。技術と市場のミスマッチ、資金の不足等いわゆる「死の谷」を越えられぬものも多い。具体例を挙げながら起業から公開(成功した場合には)までのリスク回避策を論じる。	12月1日	高井俊成	日本長期信用銀行			
	14			12月8日					
事業再生	15	ケーススタディ	不幸にして経営破綻を招来した企業を再生するには、どうすればよいか。コアとノンコアの選別から始まる再生のステップを具体例を挙げながら説明する。	12月15日	田中健一	蝶理			